

「マルチレベル」視点での 政治制度の再検討

神戸大学 法学研究科

砂原庸介



有権者による代表の選択

国・地方の選挙制度と執政制度の違いに注目し、現在の日本の政党システムのあり方、野党の弱さを説明する研究



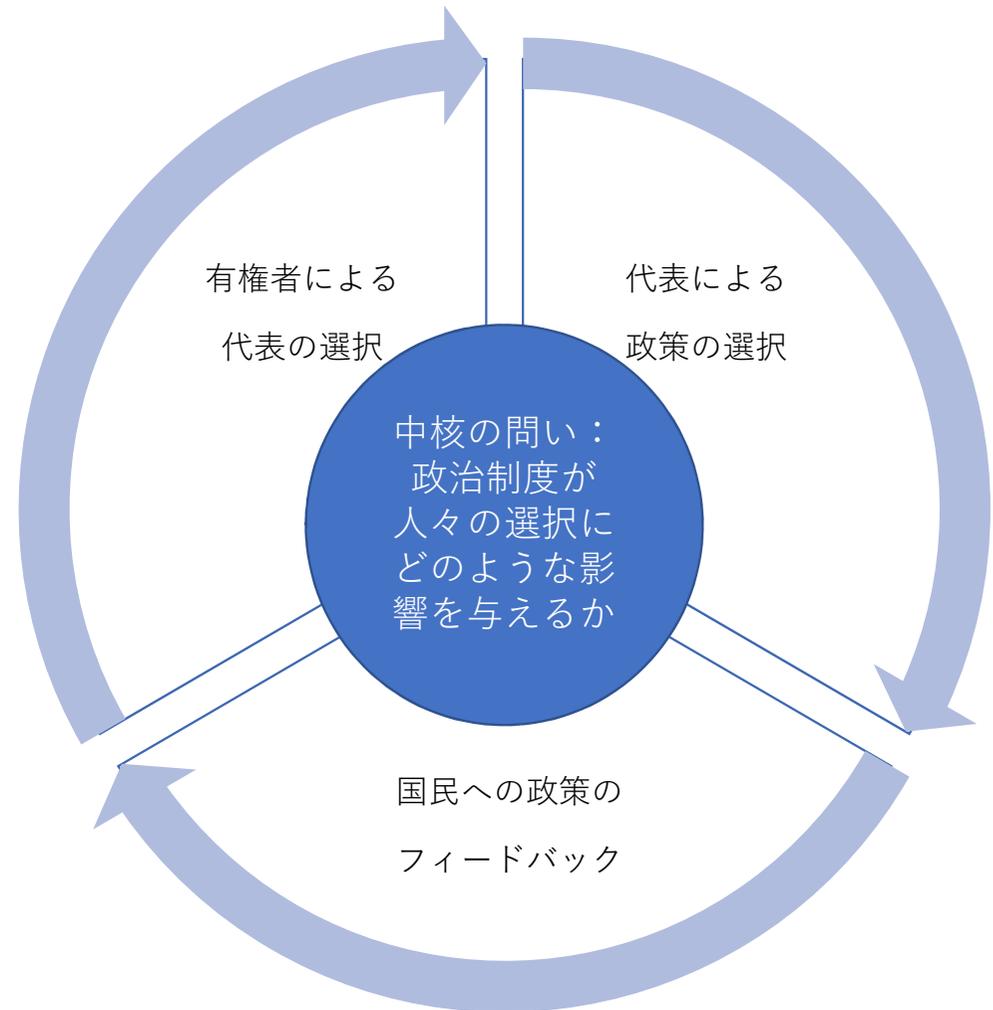
代表による政策の選択

地方レベルにおいて、選挙を通じて選好を形成する「二元代表」が相互作用を通じて政策を形成していることを説明する研究



国民への政策のフィードバック

住宅政策に注目し、新築住宅の建設を中心とする「持家社会」がどのように形成されてきたか説明する研究



「マルチレベル」での政治制度の効果

- マルチレベルとは？
 - 国政レベル
 - 地方政治レベル
 - (欧州の場合) EUレベル など
- 最近の研究でわかり始めたこと
 - マルチレベルでの政治制度の違いが政治や政策に影響を及ぼす
 - 特に顕著な例：イギリス
 - 選挙制度の違い：国政=小選挙区制，EU議会=比例制，スコットランド=連用制
 - スコットランド独立やBrexitの住民投票に効果

「マルチレベル」での政治制度の効果

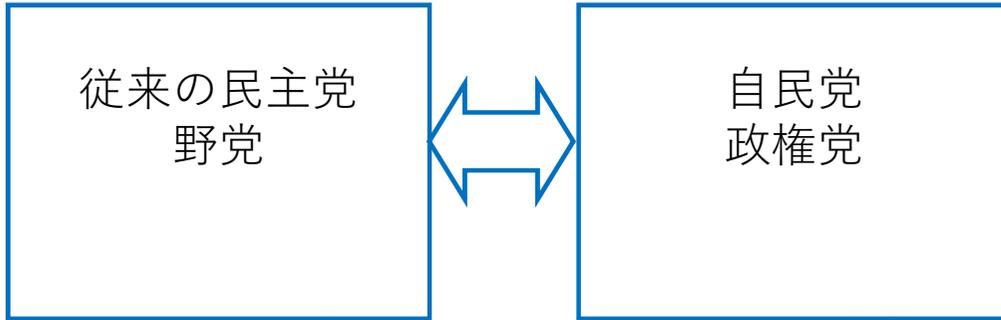
- 日本－珍しい組み合わせの事例
- 選挙制度改革前：国政－地方ともにいわゆる中選挙区制
 - 国会議員・後援会を中心とした集票活動
 - しばしば批判される「利益誘導」
- 選挙制度改革後：国政は小選挙区制，地方は不変
 - 国政選挙は政党中心に変化，保守系新政党の伸長
 - 地方議会は変わらず／地方分権で知事の権力は強化

「マルチレベル」での政治制度の効果

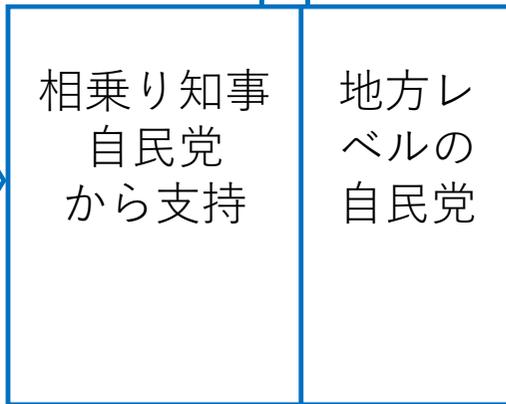
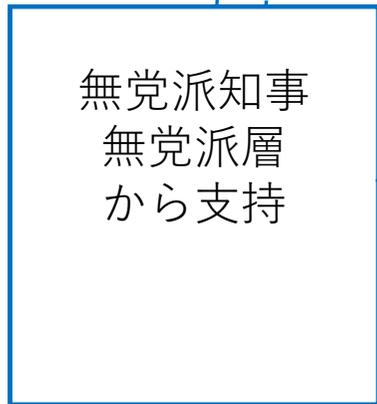
- 選挙制度改革後－「政治的競争」のズレ
- 国政レベル：政党間の競争
 - 社会保障や外交など「集合的利益」が問題
 - 有権者は各政党の「ラベル」を見て投票
- 地方レベル：部門間競争と個人間競争
 - 長によっては地域の「集合的利益」を争点化
 - 個人が選ばれる議員は「個別的利益」に配慮せざるを得ない

集合的利益の強調

個別的利益の強調



弱いつながら
2009年総選挙?



相対的に
強い結合

国政レベル

- 選挙制度改革後「政党ラベル」が重要に
- 野党は社会保障などで集合的利益を強調する公約

地方政治レベル

- 選挙制度は不変で「政党ラベル」の効果が弱い
- 野党系の知事も議会对策のため個別的利益志向で相乗り
- 例外的な無党派知事は民主党より集合的利益志向／地元志向も強い



課題と対応

- 国政レベル－極めて弱い野党
 - 「政党ラベル」が通用するのは基本的に国政選挙
 - 地方の利益を集約できない／非常に強い分裂傾向
 - 無党派の長との連携も困難→一部は新党の形成
- 地方レベル－議員の求心力の低下
 - 国政との関係が薄くなる／知事との関係で埋める？
 - 「なり手」不足：都道府県議会での無投票増加

課題と対応

- 国政と地方政治の「政治的競争」を近づける
 - 政党化の進展：地方レベルの選挙制度の再検討
 - ズレの是正という点では小選挙区制あるいは連記制
 - 現在からの移行という点では非拘束式比例制
 - 統一地方選挙の「統一度」を向上させることも
- 政党化への論点
 - 国政政党に従属？－地方レベルの政党をどう作るか
 - 個人ではなく政党として有権者を代表－多様な議員のあり方